



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会 2013年（平成25年）12月15日号 No. 1614

目次

■ 2013年ロシア都市ビジネス環境ランキング	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2014年1月号のご紹介	4
■ トピックス	5
JTがロシア大手物流会社に出資 / 5	
日ロ漁業委、サンマ漁獲枠大幅増で合意 / 5	
ロシアのガスプロム幹部、新潟県庁を訪問 / 5	

2013年ロシア都市ビジネス環境ランキング

はじめに

先般、ロシア版『フォーブス』誌（No.111）に、ロシアの主要都市のビジネス環境を比較しランキング形式にて発表している記事の2013年版が掲載されたので、今回の速報ではこれを抜粋してご紹介する。

同ランキングは2008年から発表されており、今回で6度目となる。同ランキングで比較の対象となっているのはロシア国内にある都市のうち、人口が多く、住民の平均給与が高い30の都市である。そして企業がビジネスを行うのに影響を及ぼす要因となる「労働力の豊富さ」、「クレジットの利用のし易さ」、「インフラ整備」、「税務調査の適切さ」、「都市の閉鎖性」という項目によりこれら都市を評価しランキング付けしている。

評価項目の「労働力の豊富さ」は住民1,000人に対する新規の大学卒業生の割合とネットでの求人広告一件あたりの求人数を指標化している。ポイントが高いほど、その都市の人的資源は豊富であるといえる。「クレジットの利用のし易さ」は域内総生産におけるクレジットの割合、固定資本におけるクレジットの割合、個々の企業が抱えるクレジット債務の平均額によって指標化されている。ポイントが高いほどクレジットの利用がしやすく資金調達が容易となる。「インフラ整備」は3ヵ月～2年間の期間に完成しなかったインフラ設備の割合と電力インフラへのアクセスのしやすさを指標化している。ポイントが高いほど、インフラが充実している。「税務調査の適切さ」とは連邦税務庁と企業が税務訴訟を起こし